

令和6年度 学校自己評価重点目標シート (川口市立高等学校 定時制)

(A4判横)

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校教育目標	未来を創る しなやかでたくましい人材の育成
目指す学校像	新しい時代の教育を創造し、しなやかでたくましい人材を育てる川口市のリーディング校

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	
学校関係者(教職員を除く)	4名
事務局(教職員)	6名

学校自己評価					
領域	年度目標			年度評価(令和6年12月2日 現在)	
	現状と課題	重点目標	具体的方策	重点目標の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
組織運営	○定時制生徒の半数以上が不登校経験者や外国にルーツのある生徒である。 ○生徒の目標が「卒業」だけでなく「将来を見据えた進路」に大きく変わってきている。 ○教員減に伴う教職員の校務負担の増加が想定される。	「生徒の進路実現を支援する組織を構築する」 ①多文化、多様性を理解し、個々の生徒に沿った指導体制・教職員組織を構築する。 ①進路希望の未決定を0にする。 ②校務の効率化を図るとともに働き方改革を実施し、教育の質の向上を図る。	①「産業社会と人間」を中心に4年間を見通した系統的なキャリア教育を実施し、生徒の自己理解の深化、進路意識の醸成を図る。 ②ICTを活用し、学校関係者との情報を共有や校務のスマート化を図る。	①外部機関(川口市、JICA東京)と連携し「多文化共生」に係る教員研修、生徒校外学習を実施した。 ①進路希望の未決定者数は「0」である。 ①日本語教室の生徒出席延べ人数は2,841名(同時期昨年度2,391名)、昨年度より増加した。日本語能力検定合格者4名である。 ②保護者宛文書ネット配信、三者面談、保護者対象公開授業を実施するなど保護者と連携した指導体制を構築した。	B ①1年次から卒業後の将来を見据えた系統的なカリキュラム編成・個々の生徒に沿った年次団の親身な指導体制が必要である。 ②令和8年度以降の募集停止が決定し、教員数の減少を見据えた効率的な学校運営の組織及び方法を検討し推進する。
教育課程	○定時制総合学科の特徴を活かしたキャリア教育プログラムを実施している。完成年度である。 ○地域・生徒・学校の現状を踏まえたカリキュラムが求められている。	「教育課程の円滑な実施を進める」 ③すべての生徒の学力・能力(知る・学ぶ・考える・行う)を伸ばす。 ④生徒・保護者・地域の要望や学校の現状を踏まえ、カリキュラムマネジメントを行う。	③キャリア教育プログラム、編成し直した「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を全教職員が確実に実施する。 ③ICT等を活用した学びや体験活動、学び直し、日本語指導など、生徒一人一人に沿った指導の充実策を実施する。 ④アンケート等を参考にカリキュラムマネジメントを実施する。	③「進路の手引き」を活用したキャリア教育(外部講師講演等)を着実に実施した。生徒満足度は84%である。 ③「産業社会と人間」における生徒満足度78%、「総合的な探究の時間(NIE)」における生徒満足度40%である。 ③授業における生徒満足度は84%である。 ④校外行事を例年以上に実施した。情操教育だけでなく公共マナー意識を啓発することができた。生徒満足度は73%である。	B ③④募集停止以降の生徒数の減少を見据え、教育内容の保障について、市教委に働きかけつつ、教育活動の維持、充実に努めていく。 ③④「総合的な探究の時間」については再検討が必要である。
開かれた学校づくり	○夜間定時制のため外部連携が難しい面がある。 ○定時制の魅力ある学びの発信をより一層充実させることが求められている。	「積極的に広報するとともに外部機関や地域社会とWin-Winな関係づくりを構築する」 ⑤外部機関等との連携を一層強化し、生徒の将来を見据えた学びを進める。 ⑥様々な媒体、機会を活用し定時制の魅力発信する。	⑤外部機関や地域だけでなく、全日制、付属中との連携を積極的に行う。 ⑥HPやSNSを活用し定時制の魅力を発信していく。学校説明会や学校見学の実施方法について改善しながら実施する。	⑤同窓会(生徒会行事)、全日制(文化祭)、他校(所沢高(定)、陽春分校)など連携事業を実施した。 ⑥HP更新回数51回(昨年同時期36回)、SNS活用した情報発信をした。保護者用HPを設置し、保護者と情報共有・連携を図り、教育の質の向上を推進した。 ⑥個別学校見学26名、学校説明会参加人数75名である。昨年度以上の参加者数である。	A ⑤⑥夜間定時制ということもあり、外部連携が難しい面がある。外部機関や地域社会とWin-Winな関係づくりの構築のため、情報発信、連携事業など積極的な活動を今後も継続していく。
教職員の資質向上	○組織的かつ計画的な研修体系を構築する必要がある。 ○定時制教職員数が少ないことから研修参加が難しい面がある。	「教職員の資質向上を推進させる」 ⑦校内研修を計画的に行い、教職員の指導力向上を図る。 ⑧校外研修等への教職員の積極的な参加を推奨する。	⑦保護者も含めた公開授業、研究授業を実施する。 ⑦行事を精選しつつ、新たな取り組みを実施しながら教員の資質を向上させる。 ⑧校外研修へ積極的な参加を推奨する。	⑦⑧公開授業見学者数21人、今年度より保護者対象公開授業週間を設けた。保護者から直接意見を伺うことができた。 ⑦⑧成績優秀者は1学期61名、2学期56名(昨年度1学期53名、2学期55名)であった。教科指導研究など職員の地道な研鑽による学びなおしの成果があがってきている。 ⑦⑧様々な行事实施により教職員の資質向上ができた。	A ⑦⑧教科指導・校務にICTスキルがさらに欠かせなくなってきた。今後も継続的に教員のICTスキルを向上させる研修を実施する。
施設・設備等の管理	○全日制、付属中との情報共有し、緊密な連携体制を構築し、安心安全な学校生活を保障する必要がある。 ○ICT活用の流れを後戻りさせないという意識の下、教育活動を充実させる必要がある。	「施設設備の効果的な活用と安心安全な学校生活の保障する」 ⑨定時制特有の課題に対して安心・安全を確保する。 ⑩施設・設備を活かした教育活動を展開する。	⑨自転車点検や登校指導、不審者等の防犯対策など安全確保と安全点検を行う。 ⑩ICT等を効果的に活用できる研修を実施する。	⑨防災訓練を2回実施した。 ⑨校内の防犯対策の見直し、自転車点検、登校指導を実施するなど安全指導を行った。 ⑩ICTを活用した授業における生徒満足度85%である。	A ⑨次年度以降も付属中、全日制と連携して生徒の防災意識の高揚を継続していく。 ⑩ICT活用について生徒の状況を踏まえ、検討して実施する。

学校関係者評価	
※実施日 令和7年1月15日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
①②定時制生徒の現状を踏まえ、生徒に寄り添いながらの指導、そして4年間を見通したキャリア教育をさらに推し進めてください。	③④生徒が募集停止による在籍生徒数減少に伴う不利益を被らないよう関係各所に働きかけ、教育活動の維持、充実に努めてください。
②教員数が減少傾向にありますが、効率的かつ効果的な組織運営を行い、教育の質を向上させてください。	③④生徒アンケートの結果から、定時制が魅力ある教育を行っていることがわかった。現在のカリキュラムについて学校や生徒のため、時代の流れということを踏まえて絶えずPDCAを行い、引き続き、生徒にとってワクワク感のある教育、そして生徒が将来への夢や希望を持てる教育を実践してください。
②近隣中学校、他の高校においても定時制と同様に日本語を母語としない生徒の指導について試行錯誤をしている状況であると思います。そのような学校と情報共有しながら、多文化共生や日本語指導等を推し進めてください。	⑥定時制のHPをいつも拝見しているが、随時更新されており、定時制の教育活動がよくわかった。引き続きお願いしたい。
③④募集停止以降の生徒数の減少を見据え、教育内容の保障について、市教委に働きかけつつ、教育活動の維持、充実に努めていく。	⑦⑧⑩新たに公開授業や三者面談を行うなど保護者と連携したより良い指導体制を構築している。ICTに係る教職員研修を継続して続け、さらにICTを活用した授業をお願いしたい。
③④「総合的な探究の時間」については再検討が必要である。	⑦⑧授業が単にわかりやすいだけではなく、難しいがわかりやすい授業を行い、生徒の知的好奇心を満たす授業をお願いしたい。
⑤外部機関や地域だけでなく、全日制、付属中との連携を積極的に行う。	⑨防災訓練、自転車通学の指導など十分に行っており、生徒の安全を第一に考えた指導を行っている。行政の立場から闇バイトなど生徒が様々な犯罪に巻き込まれる事案が非常に懸念されている。このような犯罪に生徒が巻き込まれないように今まで以上に指導をお願いしたい。